

事項	ナガイモコガの発生活長調査にはコナガのフェロモントラップが利用できる														
ねらい	ながいもを加害するナガイモコガの発生活長を把握するうえで、コナガのフェロモントラップを活用できることが明らかとなったので参考に供する。														
指導内容	<p>1 ナガイモコガの発生活長</p> <p>(1) ながいも栽培圃場にコナガのフェロモントラップを設置することにより、各世代成虫の発生時期を把握することが可能である。</p> <p>(2) 平成17年及18年のナガイモコガ雄成虫の誘殺状況から、5月下旬～6月上旬、ながいも萌芽後の7月中～下旬及び8月中旬～9月上旬に誘殺ピークが認められる。</p> <p>(3) 雄成虫の誘殺ピークから4半月ほど遅れて中老齢幼虫による食害葉が増加する（およその防除時期は、誘殺ピークの1～2週間後と推定される）。</p> <p>2 ナガイモコガとネギコガの見分け方</p> <p>(1) コナガのフェロモントラップには、ネギコガも誘殺される。 成虫の大きさや前翅後縁部の白色紋等で区別でき、一度、ネギコガまたはナガイモコガを見れば、容易に識別することが可能である。</p> <table border="1" data-bbox="371 891 1361 1030"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>ナガイモコガ</th> <th>ネギコガ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成虫の大きさ</td> <td>小さい（開長7～10mm）</td> <td>大きい（開長10～12mm）</td> </tr> <tr> <td>前翅後縁の白色紋</td> <td>「Λ」、明瞭～やや不明瞭</td> <td>「△」、明瞭</td> </tr> <tr> <td>前縁の白条紋</td> <td>やや明瞭～不明瞭</td> <td>不明瞭</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) ながいも圃場内にトラップを設置した場合、他の近縁種が誘殺されることはほとんどない。</p> <p>3 やまのいも類を加害するアトヒゲコガ属 (<i>Acrolepiidae</i>) の種類（参考）</p> <p>(1) ながいも及びつくねいも等に代表される本県の栽培ながいも種 (<i>Dioscorea opposita</i>) を寄主とするのは、ナガイモコガ (<i>Acrolepisi nagaimo</i>) である。</p> <p>(2) やまのいも類を寄主とするナガイモコガの近縁種には、ヤマノイモコガ (<i>A. suzukiella</i>)、トコロミコガ (<i>A. issikiella</i>) 及びヤマノイモムカゴコガ (<i>A. japonica</i>) が知られている。</p>			区 分	ナガイモコガ	ネギコガ	成虫の大きさ	小さい（開長7～10mm）	大きい（開長10～12mm）	前翅後縁の白色紋	「Λ」、明瞭～やや不明瞭	「△」、明瞭	前縁の白条紋	やや明瞭～不明瞭	不明瞭
区 分	ナガイモコガ	ネギコガ													
成虫の大きさ	小さい（開長7～10mm）	大きい（開長10～12mm）													
前翅後縁の白色紋	「Λ」、明瞭～やや不明瞭	「△」、明瞭													
前縁の白条紋	やや明瞭～不明瞭	不明瞭													
期待される効果	フェロモントラップによって本種の発生活長を簡易に調査することが可能となり、防除時期を把握する上での参考となる。														
利用上の注意事項	<p>1 これまでの知見は、2か年の調査結果からであり、より詳細な消長を知るには、誘殺データの年次蓄積が必要である。</p> <p>2 毎年の誘殺状況については、青森県農業情報サービスネットワーク「アップル農場：病害虫防除情報」(http://www.applenet.jp) に掲載する予定である。</p>														
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場 病害虫防除室 (松田正利、及川健、佐藤正和、成田治、藤村建彦)	対象地域	県下全域												
発表文献等	<p>平成13～16年度 畑作園芸試験場成績概要</p> <p>平成17～18年度 青森県有害動植物予察事業年報</p> <p>北日本病害虫研究会報告 第55号 (2004)</p>														

【根拠となった主要な試験結果】

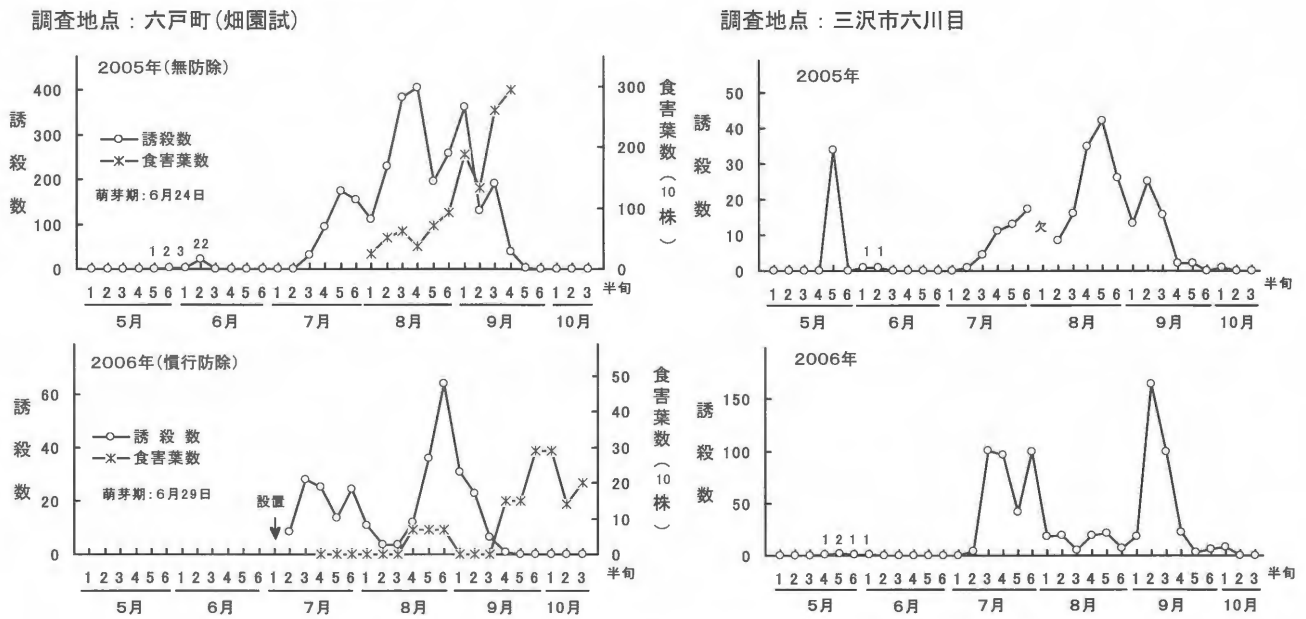


図1 フェロモントラップによるナガイモコガ雄成虫の半旬別誘殺数及び食害葉数の推移 (平成17～18年 青森県有害動物予察事業年報)

(注) 1 コナガの誘引剤を用い、粘着式トラップで調査を行った。
2 三沢市は、ながいも圃場に隣接したキャベツ圃場での調査。

表1 アトヒゲコガ属各種の寄主植物及び形態的特徴 (安田(2002)、平13～16年 青森農林総研畑園試)

種名	寄主植物			成虫の前翅における形態的特徴				備考
	ながいも	トコロ	じねんじょ	開長	地色	後縁白色紋	前縁白条纹	
ナガイモコガ <i>Acrolepis nagaimo</i>	●		●	7～10mm	灰黒色 灰褐色	「八」、明瞭 ～不明瞭	やや明瞭 ～不明瞭	
ヤマノイモコガ <i>A. suzukiella</i>		●	○	11～12mm	灰褐色 暗褐色	「A」、明瞭	明瞭 ～不明瞭	
トコロミコガ <i>A. issikiella</i>		●	○	10～12mm	暗褐色	「△」、明瞭	不明瞭	
ヤマノイモムカゴコガ <i>A. japonica</i>		○	○	7～11mm	ナガイモコガに似る			本県未確認
(繻)ネギコガ <i>A. sapporensis</i>	ねぎ・にんにく			10～12mm	灰褐色 暗褐色	「△」、明瞭	不明瞭	

ながいも:*Dioscorea opposita*(ながいも、つくねいも)、トコロ:*D. tokoro*(オノドコロ等)、じねんじょ:*D. japonica*
寄主植物の●は、本県での確認事例。このほかについては、安田(2002)を参考に○で示した。



写真1 ナガイモコガ、ヤマノイモコガ及びネギコガ成虫の外観